

みやぎSDGs Farm



みやぎSDGs Farm

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGs Farm」の基幹プログラムです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。



詳しくはこちらから

賛同企業
募集中!!

[申し込み・問い合わせ]

河北新報社営業局

TEL. 022-211-1318

☑ koukoku@po.kahoku.co.jp



私は食について幅広く学ぶ大学に通っています。授業では食品ロスや発展途上

国での食料問題などSDGsにかかわることも学んでいます。そこでSDGsに興味を持ち、お誘いをいただいたみやぎSDGs塾に参加することにしました。

高校卒業まで実家暮らしをしており、ごはんを残さず食べていた私は家庭での食品ロスはほぼゼロだと思っていました。しかし一人暮らしを始めて自分で調理をする、想定していたより多くの食品を無駄にしていました。

私の場合食べる段階でなく、調理前に食品をダメにしてしまっていたのです。腐らせてしまった野菜、使い切れなかった調味



「SDGsって結局なんだろう」。社内を担当となった時の率直な気持ちです。皆さんSDGsを自分の言葉で伝えることができますか？

私はみやぎSDGs塾を通じて、取り組みの発信や東松島市へのバスツアーに参加し、メンバーと言葉を交わしていくなかで、SDGsに対する理解を深められました。知らないことは恥ずかしいことではなく、無知を分かち合うことができました。とても大切です。捉え方や視点次第でSDGsの骨格は見えてくるのです。

国分東北は食品の卸売業です。SDGsの取り組みとして「規格外三陸ホヤの有効活用」など、一次産業を持続可能にするため



「あっという間に集まるね」みやぎSDGs Farmへ初回参加し、職場に達成

目標の見える「エコキップ回収箱」を設置した数日後、同僚からのうれしい一言でした。

きっかけさえあればハードルが下がります。「どう活かされるか」を見える化することで、参加する意味も理解でき、より行動しやすくなります。一人が一步踏み出すことで、周りも一步踏み出せることを実感したみやぎでした。

山大は、自然界唯一の循環資源である木材「杉」を中心として地産地消(商)を基に、植林・製材・加工・販売・施工を行っており、山にも町にも「森」を作っています。その

自分なりの取り組み

宮城大学 食産業学群 永澤美咲さん

料、しまったまま存在を忘れていたレトルト食品など、思い出すだけで申し訳ない気持ちになります。そこで家庭での食品ロスを減らすため、3つことを実践しています。1つ目は適切な方法で食品を保存すること。2つ目は長期保存できるものでも目につく場所に保管すること。3つ目は家にある基本的な調味料以外買わないこと。これらを守るようにしてからは購入した食材をほぼ全て使い切ることができています。

私にできることは少ないですが、一人ひとりが取り組むことで大きな成果を出せると思います。



無知で広がるSDGsの輪

国分東北 佐藤悟さん

の活動も行っていきます。今後も地域共創を推進し、東北の食の地域経済を担う会社を目指します。

課題はひとつでは解決できず、「三人寄れば文殊の知恵」ではないですが、集うことで解決への道筋が立てられます。学生が総合的学習の実践をしているように、私たち社会人も外に出て、実践の学びを得ることも重要です。その場がみやぎSDGs Farmであると考えます。

SDGsの輪も広がり、地域共創活動にもつながられています。出会いに感謝しつつ、紡いだつながりを大切に。参加して終わりじゃない、ここからがスタート。私は持続可能なアンバサダーを目指します。



山・町・心に「森」を

山大 三上明子さん

中で私は、建築現場で木材を組み立てるだけの状態に加工する仕事をしています。住む人の暮らしを思い浮かべながら、地産材を使用し地元で加工し、家を建てる。それが地域の景色となり、故郷の街並みとなり、心の風景となっていきます。

今回みやぎSDGs Farmに参加することで、あらためて会社の存在意義、そして自身の仕事に対する誇りを感じました。地域材を使い植える事で、持続可能な未来につなげることを、一人でも多くの人に発信し、共に「森」を広げる仲間を増やしていきたいと思えます。

一人でも多くの人がSDGsを「自分ごと」に。



祝「みやぎSDGsアンバサダー」認定！ 「わたしのSDGs活動宣言」Vol.31



おめでとうござります!!